

## NO.7 「木造の継ぎ手や。仕口に木栓を」

- **木栓** (こみせんともいう)、**ダボ**は木造軸組工法の隠れた部品です。  
大工さんが柱・梁などを加工し組み上げる際にガッチリと部材を組み合わせるための小物 (あえてガジェット) です。  
2 ページ目の下段の○印 とあわせてお読みください。

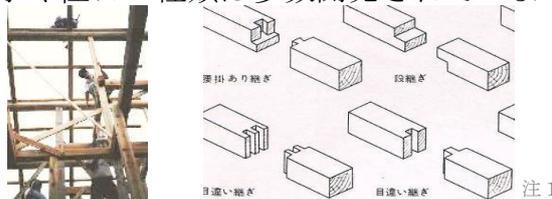
- 伝統工法と在来工法の違い

木づくりの家でも工法は様々です。  
伝統工法 (軸組工法) は、工場でプレカットされた木材を使うのではなく、1本1本、木の特性を見ながら刻んだ柱や梁、桁などを組んで家を建てる工法。特徴は、太い柱や梁が表に現れる真壁造りで、柱と柱の間に水平に貫を入れて壁をつくります。

一方、在来工法は、軸組工法ではありますが、歴史は新しく、大工さんが墨付けを自ら行い、そしてノミなどを使い手加工で行う場合と、木のクセに関係なく工場で均一にプレカットされた木材と補助金物を使う工法があります。

- 継手 (つぎて) ・仕口 (しぐち)

土台や梁の長さ制限がある以上、つないで使うこととなります。土台や柱梁などで構成する木造の建物を木造軸組構法と言っています。一材に横から接合する方法を仕口 (しぐち) といい、主に梁を連続的に接合工法を継手 (つぎて) と呼んでいます。  
継ぎ手や仕口の種類の多数開発されています。



- **木栓とダボ** (木栓のことを「こみせん」ともいう)

木造軸組工法では、釘や金物を使わずに木栓やダボなどを使用した伝統的な加工や仕口によって、部材どうしを接合します。

近代木構造は、接合部に金物を使って強固に緊結する在来工法を融合した合理的な工法が行われています。

※ **だぼ**【□太×柄／駄×柄】

石材や木材を接ぐとき、両材の接合面に差し込んでずれを防止する小片。だぼそ。

ダボ(太柄、駄柄、ドイツ語: Dübel)は、木材同士をつなぎ合わせる際に使用する木製の棒。つなぎあわせる。

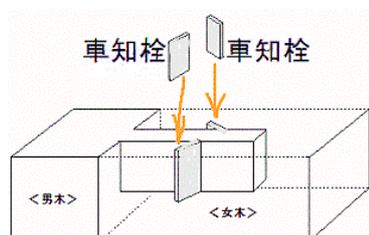
一般的なものを掲載

■ 継手 (つぎて) 注2

<p>蟻継ぎ (ありつぎ) 土台の継手には腰掛け蟻継ぎがよく使 用される。</p>	<p>鎌継ぎ (かまつぎ) 梁や胴差、桁、土台などの水平材には、腰 掛け鎌継ぎを使用する。</p>	<p>金輪継ぎ (かなわつぎ) 梁や胴差、桁、母屋、棟木な どに用いる。</p>
<p>台持ち継ぎ (だいもちつぎ) 強度は追掛け大栓継ぎや金輪継ぎよ り劣る。梁、母屋、棟木などに使 用する。</p>	<p>追掛け大栓継ぎ (おっかけだいせんつぎ) かる梁や胴差、桁、母屋、棟木など に用いる。</p>	

■ 仕口 (しぐち) 注2

<p>蟻掛け (ありかけ) ホゾ (部材端部につくった突 起) が短いため、大梁に直交す る小梁をつなぐ一般的な仕口。 梁の上端が揃うので、板材が打ち 付けやすい。</p>	<p>渡りあご 直交する2つの材を、互いに削っ て重ね合わせる方法。桁と小屋 梁、大梁と小梁との接合などに 用いられる。</p>	<p>ホゾ差し込み栓打ち ホゾを直交する材に差し込み、木栓を 打つ仕口。良く使われるのが長ホゾ差 し込み栓打ちで、土台や梁などの水平 材に柱を接合する。</p>



○ 金物や木ネジより解体時も施工も容易な木栓、木楔 (くさび)、車知 (しゃち) 等の利用を考えることも重要であると、云う。

注2は、記事は、木づくりの家 - ホームを参考に致しました。

イラストは、日本建築学会・構造教科書より。

注3は、車知継ぎ - ウッドデッキの継手の解説よりです。15.11.5